

# 東京市場化作戦

～わたしが耕す街路から緑がめぐる～

## ●都市開発サイクルから取り残された街路樹帯



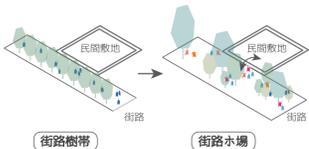
街路樹帯を機能だけの存在としない。明治7年、東京で初めて近代的街路樹が植樹された。帝都復興計画の大規模植樹以降、交通・流通、防災、公害対策などの機能を果たしてきた街路樹帯の都市の骨格としての功績は大きい。しかし、トップダウン型の都市開発サイクルから取り残された街路樹帯は、目まぐるしい建て替わりのなかでも、不変的で、画一的だった。都市の生活との関わりどころが感じられない街路樹帯の、これからのあり方を見直すべきではなからうか。人々の私生活に溢れる都市の骨格として。

## ●消費される東京の緑



東京の緑は、「消費物」として扱われている。スピード感のある東京の都市開発のなかで、緑は郊外の農地から都市圏へ輸送され、建て替わりの都度入れ替えられる。輸送時に発生する排気ガスが問題視されているとともに、建て替わりのサイクルに合わせて緑も都度入れ替えられている。東京の緑を、さらに何十年、何百年と生き続ける「いきもの」として捉えるべきではなからうか。

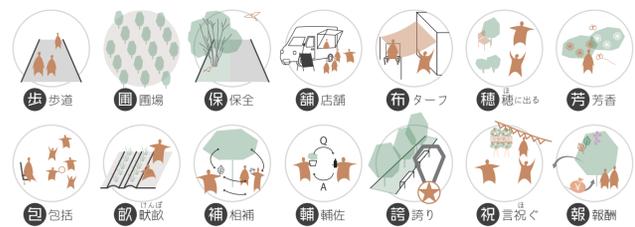
## ●景：街路樹帯から街路木場へ



街路（公）と面する民間敷地（民）の連携により、今後のさらなる車線数縮小化の進行やモビリティの変化に対応した、広がる街路空間の使い方を提案する。街路樹帯は人々の活動が思い通りに展開される「街路木場」となり、人々の活動を通して緑の循環が生まれる新たな都市インフラとなる。100年間、たくさんの建て替わりのなかでも都市の骨格として機能果たし続けてきた街路空間で、何百年とめぐり生き続ける緑循環が生まれる。

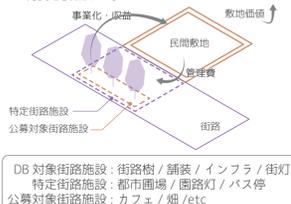
## ●ホホホの街路

新たな街路空間「街路木場」は、人々の私想「ホ」が表出する場である。人々は緑の管理に加え、自らの敷地で活動が豊かな「ホ」で街路を思い通りに耕し運営する。



## ●計：街路木場 PFI

民間の活動の街路への表出を可能とするため、敷地に面する街路空間を民間が管理・運営する街路木場PFI制度を計画する。



●DB コンソーシアムの選定  
街路ごとにDB対象施設の設計者と施工者を選定し、デザインガイドラインやコンセプトの骨格を決める。

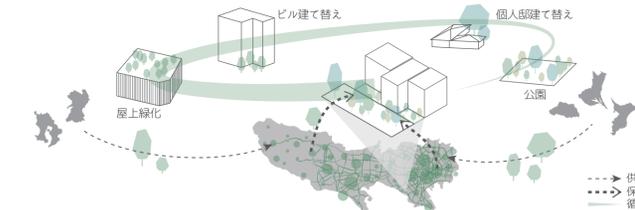


●街路 PFI 制度を用いて街路を空間を整備  
街路に面する事業者を対象に、協定を締結する。コンソは特定街路施設と公算対象街路施設の整備を行う。

●街路での収益を街路管理費にあてながら維持  
事業者コンソは特定事業（都市市場）と公算対象事業を行い、収益を用いて街路の指定管理を行う。指定管理期間は5年間とし、協定の締結を更新する。



## ●景'：百様の東京市場



2XXX年、私たちが願った新たな都市の骨格「街路木場」をきっかけとして、東京全体に緑の循環が行き渡り、百様の東京市場が賑わう。あなたはどのような「ホ」を描きますか？

1925

2025

2030

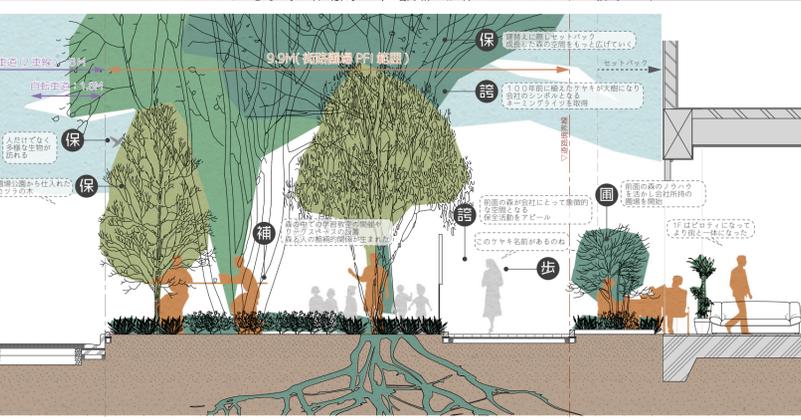
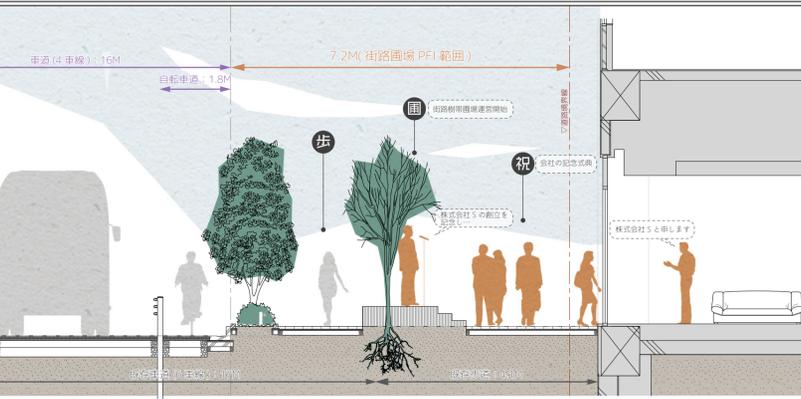
2045

2125

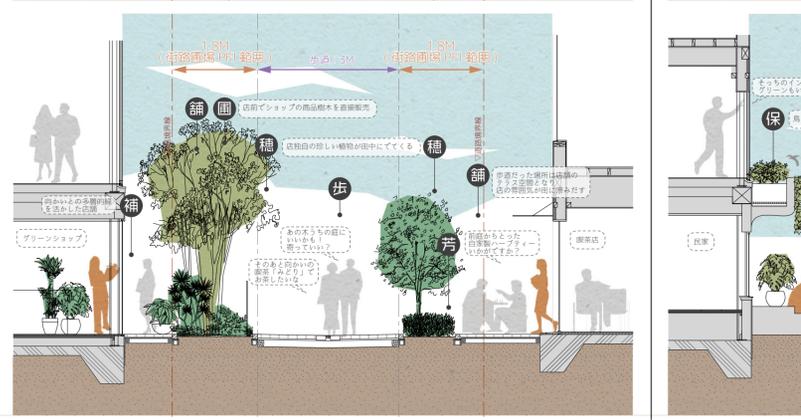
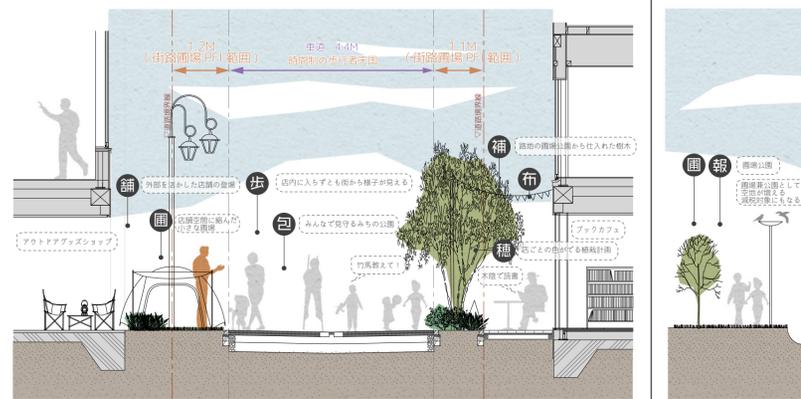
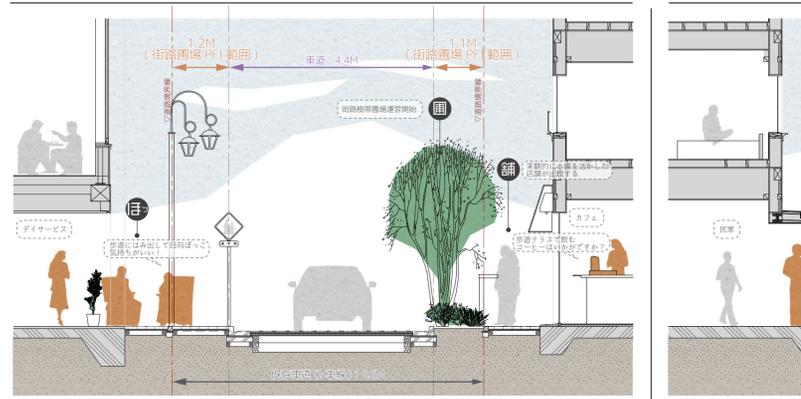
2XXX



●作戦 01. 市場 × オフィス  
場所：目黒通り  
広い街路を利用した会社式典や地域イベントを通して、オフィスの存在感が街に広がる。長い時間をかけ成長する木場はそれ自身がオフィスの象徴となる。



●作戦 02. 市場 × 商店  
場所：油面地蔵通り  
建物の入れ替わりが頻繁な商店は、植物も度々木場へ変わる。店ごとの色が出た木場が道路を狭く空間に作用しあう。



## ●敷地：目黒通り周辺（東京都目黒区）

ケーススタディの対象エリアとして目黒通り（都道312号白金台町等々力線）とその周辺を選定した。幹線道路の目黒通りの沿道にはメトロ白金台駅、JR目黒駅、東急東横線目黒駅、東急等々力駅があり、環八通りを經由して第三京浜に向かうルートである。その中でも対象エリアは沿道に商業や住宅が並ぶエリアとなっている。目黒通りに接続する小規模道路もケーススタディとし、様々な街路に対する提案を行う。



●作戦 03. 市場 × アパート  
場所：路地  
アパートでは水場が共有庭園になる。住民独自の活動が豊かなコミュニティを築く。

